

あらえびす賞

ぼくとノクターン

赤石小学校 6年 神 壮哉

曲名は知らなくてもきいたら「あー知ってる。」と言うショパンの名曲の一つ「ノクターン」。この曲は、夜の静けさを表現したピアノの曲で、ショパンというポーランドの作曲家が作りしました。「ノクターン」という言葉は「夜想曲」ともよばれていて、夜のしずかな時間にぴったりの音楽です。

ぼくが「ノクターン」に出会ったのは、ピアノをはじめたばかりの時です。ねる時にユーチューブでクラシックをかけてねるのが好きで、その中でも「ノクターン」はぼくの頭の中に残っていて目をとじてきいていると、「ポワンプワン。」

と、あったかくて優しくて心がおちつく感じがしました。

ぼくが一番印象に残ったのは、曲の中にあるゆっくりからはやくなったり、おそくなったりする切り替えの部分です。色々な曲にこういった表現があるけれど、音色が美しくいいこまれる感じがとても気持ちがいいからです。真っ暗な部屋できくとわかります。

ショパンは、この曲で夜の静けさや心の中の色々な思いを表現していると思います。ねる時にきくと、心がスッキリします。モヤモヤしているのがスーッとなくなりました。

ぼくはこの「ノクターン」を今年弾く機会がありました。先生から誘っていただき「ミニコンサート」で弾きました。

ふだん家でよくきいていたけど、いざふ面をみるとできるかなあとドキドキしました。

でも弾いていくうちにショパンはなんでここを弱くしたのかなあとか、だからここがはやいのかもと、もっと「ノクターン」の事を知りたくなったし、もっと好きになりました。

本番で弾いた後、バイオリンの先生から、「すごく伝わってきて感動した。これから音楽を楽しんで続けてね。」と言われ、とてもうれしかったです。

この曲を通して、ぼくは音楽の素晴らしさを改めて感じることができました。

音楽はきいて楽しむだけではなくて、心の中で色々おもわせてくれるものです。ショパンの「ノクターン」も大好きですが、ぼくはもっと色々な作曲家の事も知ってみたい、弾いてみたいと思いました。もっとクラシックが好きになりました。

ぼくにとって「ノクターン」は数多くの曲の中で特に大切な一曲です。

これからも毎日一回は弾いてもっと「ノクターン」を知りたいと思います。今ポップスが人気だし、良い曲もたくさんあります。けれど、聞くと知っている人が多いクラシックには、それだけ魅力があります。「ノクターン」をはじめとしたクラシックがぼくはやっぱり好きです。そんなクラシックとぼくは、人生において大切なものにこの先もなっていたいです。

曲名 ノクターン
作曲 ショパン

あらえびす賞感想文について

審査員講評

ピアノの詩人と言われるショパンの音楽は私たちを優しく包み込み、様々なことを語り掛けてくれますね。そのような名曲を眠る前にノクターンを聴きながら、気持ちを整えるルーティンがとても素敵ですね。さらに演奏する機会が得られたことは、とても幸運だったと思います。聴いている音楽を演奏できる喜びも格別で、壮哉さんの感想文からそのときのドキドキ感が読んでいるこちらにも伝わってきました。楽譜にはショパンからのメッセージが、言葉ではなく音符や音楽の記号で表されています。それらを読み解いていくことも音楽の面白さの一つです。

ノクターンは21曲あります。他のノクターンも素敵な曲ばかりです。ぜひ聴いて、また感想を教えてください。

優秀賞

音楽のみりよく

日詰小学校 4年 鈴木 杏里紗

「きれい。」

思わずつぶやいた。チェロの音色がなめらかで、きれいだったから。

わたしは、野村胡堂・あらえびす記念館でサン＝サーンス作曲の組曲「動物の謝肉祭」から「白鳥」と「堂々たるライオンの行進」「めんどりとおんどり」「象」「カンガル」の五曲を聴いた。初めは、「白鳥」だった。曲を聴いて、白鳥が湖でゆうがにおよいでいる様子を思いうかべた。やわらかな音色でせんりつをえんそうしていたから。でも、みんながどうかんじているか気になったし、まちがっていたらどうしようとおあんて発表しようかどうかまよった。その時、館長の岩崎先生が、

「音楽のかんじ方は、人それぞれなんだよ。」

と、言ってくれた。それを聴いて、音楽には、正かいないから自由にかんじたことを発表していいのだと安心した。発表したら、岩崎先生が

「そうだね。」

と、やさしくうけ止めてくれた。白鳥がとび立っている様子を表していると発表した友だちもいた。いろいろなかんじ方があって、すてきなあとだった。かん賞が前よりもっとすきになった。

わたしが気になったのは、ピアノのぼんそうだ。わたしは、ようち園からピアノをならっている。一人でひいたり、ピアノの先生といっしょにひいたりすることだけで、チェロなどの楽器といっしょにえんそうするなんてすごいと思った。チェロは、おもなせんりつをえんそうしていて、ピアノのぼんそうは、チェロのえんそうをひき立てるためにあるのかなと考えた。同じ動きをくり返していて、湖のなみややわらかな風、自然を表しているとかんじた。チェロとピアノがうまくまざりあって曲をつくっていると思う。

この他に、「象」は、ゆっくりリドシと歩いている象が想像できた。チューバやコントラバスなどの音が低い楽器を使っているから、表せるなと思った。また、「めんどりとおんどり」は、バイオリンとピアノでテンポよく、

速いリズムでえんそうされていた。だんだん音の動きが速くなって、まるで
おにごっこをしているような、そんな様子が思いうかんだ。楽器の音色や音
の速さで、動物を表せるなんて音楽はすごいと思った。

わたしは、しょうらいチェロなどの楽器といっしょにえんそうしてみたい。
また、かんじ方を大事にしてピアノをえんそうする時は、聴いている人に伝
わるように表現したい。今までは、音楽をただなんとなく聞いていた。でも、
絵や文章と同じように音楽も目には見えないけれど表現できるのだ。これか
ら、作曲した人の思いやせんりつをかんじて聴きたいし、わたしも曲のとお
ちようを大切にしてピアノをひいていきたい。

曲名	組曲「動物の謝肉祭」から「白鳥」
作曲	サン＝サーンス

優秀賞

サンリサースとの出会い

日詰小学校 4年 五十嵐 琉

ぼくは、二年生からトランペットをえんそうしています。トランペットは、「パーンパーン。」と、高くて力強い音を出せます。ぼくは、そんなトランペットの音が大好きです。

ある日、ぼくは、野村胡堂・あらえびす記念館に行き、「動物の謝肉祭」から「白鳥」をききました。数百万もするというスピーカーで。館長さんが、この曲はチェロとピアノでえんそうしていると教えてくれました。チェロって、どんな音なのかわくわくしました。きいてみると、チェロは、しっとりなめらかなやさしい音色でした。その音色から、白鳥が湖でしずかに泳いでいるのと羽をひらいてゆっくり体を休めている様子がぼくの頭にうかんできました。おもなせんりつをチェロがえんそうしていて、えんそうしていたのは、ヨーヨーマさん。学校にもどってから、気になったので、調べてみました。ヨーヨーマさんは、世界でもっとも有名なチェロそう者だそうです。四さいからチェロを学んだそうです。ぼくよりもはやくて、すごいなおどろきました。「白鳥」のおもなせんりつの上がり下がりを心をこめてえんそうしているから、きいている人を感動させるのかなと思いました。最後の「チャララララララー」のもり上がるところは、きいてみるとぼくの心が高まります。そして、鳥はだが立ちます。その後のしずかな部分は、やさしい気持ちになります。きいている人をこんな気持ちにさせるヨーヨーマさんを、ぼくはそんけいします。ぼくもあんなふうにあんそうしてみたい。そんな気持ちにさせてくれました。

野村胡堂・あらえびす記念館では、この他に館長さんがクイズを出してくれました。「動物の謝肉祭」には、「白鳥」の他にもたくさんの動物たちがいたのです。「象」と「雌鶏と雄鶏」と「カンガルー」「堂々たるライオンの行進」を曲をきいて当てました。えんそうのしかたや楽器によって、動物たちをあらわせるなんて、びっくりしました。「象」は、すぐ分かりました。なぜかというと、低い音だったし、テンポがゆっくりだったからです。

「堂々たるライオンの行進」も分かりました。ライオンのはく力ある様子が、目にうかんだからです。リズムが堂々としているし、音の上がり下がりがはげしくてかっこいい曲でした。「雌鶏と雄鶏」は、「カンガルー」とどちらかまよいました。でも、鶏が、「コッコッ」と追いかけている様子が分かったし、カンガルーは、ピョンピョンとびはねている様子が思いうかびました。せんりつやリズム、強弱などに気をつけて、その曲についてよく考えて、これからえんそうしていきたいと思いました。ヨーヨーマさんのようには無理でも、少しでも近づけるかな。サン＝サーンスに、音楽を教えることができました。

作曲	曲名
サン＝サーンス	組曲「動物の謝肉祭」から「白鳥」